

京都国際マンガミュージアム特別展「紙芝居百年展」  
「紙芝居とマンガのアヤシイ関係」コーナー出展一覧

資料名	作者名	発行者名	発行年	所蔵者	コメント
1 紙芝居から本へ					
『黄金バット なぞの巻・地底の国』（復刻版）	永松健夫	桃源社	1975 (昭和50)		『冒険活劇文庫』の明々社から出版された全4部のうち第1部（1947（昭和22）年）と2部（1948（昭和23）年）を合わせて復刻されたものです。
『地球SOS』（復刻版）	小松崎茂	桃源社	1975 (昭和50)		
『冒険活劇文庫』創刊号（復刻版・『少年画報大全』付録）		少年画報社	2001 (平成13)		
『黄金バット』第1巻（復刻版）	加太こうじ・作／一峰大二・画	大都社	1990 (平成2)		加太版の黄金バットをもとにテレビアニメが作られたとき（1966年）際、連動して、「ウルトラマン」シリーズや「電人アロー」「七色仮面」などのマンガを描いていた一峰大二・画で『週刊少年キング』に連載された作品。
『黄金バット』第2巻（復刻版）	加太こうじ・作／一峰大二・画	大都社	1990 (平成2)		
『海底王国』（復刻版）	小松崎茂	集英社	1981 (昭和56)		
『ノックアウトQ』	山川惣治	学童社	1952 (昭和27)		
『幽霊牧場』前編	山川惣治	集英社	1951 (昭和28)		
『少年タイガー』第1巻	山川惣治	産業経済新聞社	1956 (昭和31)		
『少年王者』第3集	山川惣治	集英社	1948 (昭和23)		
『少年ケニヤ』第1巻	山川惣治	産業経済新聞社	1951 (昭和28)		
2 紙芝居作家からマンガ家へ					
「てる坊」第268巻〔紙芝居〕	岡のぼる	聖和社		群馬県立土屋文明記念文学	

『墓場鬼太郎』	水木しげる	兎月書房		現代マンガ図書館	東京作画会編集「怪奇読切傑作集」と名付けられた貸本マンガ誌に掲載された水木しげるの「墓場鬼太郎」。「ケケケ」と笑いながら、人間を地獄に落としたり、狂人にしたりするなど、私たちがテレビアニメで知っている「正義の味方」の鬼太郎とはずいぶん違います。先般、この鬼太郎を原作にしたテレビアニメ放映が始まりました。
『怪談』第54集		つばめ出版			怪奇物語をテーマにした貸本マンガ誌。小島剛夕や、後にホラーマンガで名をはせる浜慎二らが名前を連ねています。
「白い旗」『月刊漫画ガロ』1968年5月（第45）号	水木しげる	青林堂	1968 （昭和43）		
『月刊漫画ガロ』1966年3月（第19）号		青林堂	1966 （昭和41）		
「鬼太郎夜話」『月刊漫画ガロ』1967年6月（第34）号	水木しげる	青林堂	1967 （昭和42）		
『怪談』第56集		つばめ出版			
「乾いた眼」『怪談』第50集	小島剛夕	ひばり出版			
『純愛忠臣蔵 お軽と勘平』	小島剛夕	つばめ出版			
『弁天小僧② 格之介格子』	小島剛夕	つばめ出版			
『墓場鬼太郎 貸本まんが復刻版』第1巻	水木しげる	角川書店	2006 （平成18）		
『墓場鬼太郎 貸本まんが復刻版』第2巻	水木しげる	角川書店	2006 （平成18）		
『墓場鬼太郎 貸本まんが復刻版』第3巻	水木しげる	角川書店	2006 （平成18）		
『オール怪談』第71集		ひばり書房			
『サスケ』第1巻	白土三平	青林堂	1962 （昭和37）		
『忍法秘話』第1巻	青林堂		1963 （昭和38）		白土三平が確立した「忍法もの」をテーマにした貸本マンガ誌。白土のほか、同じく青林堂が出版した『月刊漫画ガロ』などでも活躍する楠勝平らが名をみえます。
『少年王者』第2巻	山川惣治・原作 白土三平・構成・画	東邦漫画	1962 （昭和37）		山川惣治作画で大人気を博した同名の絵物語作品を、白土三平がマンガ化したもの。
『赤目』第1部		ひばり書房			標題は白土三平の作品名ですが、同時に、小島剛夕の「おぼろ笛」という忍者マンガも収録されています。

『月刊漫画ガロ』1965年11月(第15)号		青林堂	1965(昭和40)		
紙芝居の中の<不気味なもの>たち					
「悲劇コケカキイキイ」第21巻〔紙芝居〕	入江将介・作 ／朝原[潤一]・素描 桃山潤二・彩色	神港画劇協会		杉浦貞	
「悲劇コケカキイキイ」第22巻〔紙芝居〕	入江将介・作 ／朝原[潤一]・素描 桃山潤二・彩色	神港画劇協会		杉浦貞	
「悲劇コケカキイキイ」第23巻〔紙芝居〕	入江将介・作 ／朝原[潤一]・素描 桃山潤二・彩色	神港画劇協会		杉浦貞	
「悲劇コケカキイキイ」第57巻〔紙芝居〕	入江将介・作 ／不明・線 澁谷好男・彩色	神港画劇協会		杉浦貞	
『墓場鬼太郎』第7巻	伊藤正美・原作 ／竹内寛行・画	兎月書房		現代マンガ図書館	
『墓場鬼太郎』第9巻	伊藤正美・原作 ／竹内寛行・画	兎月書房		現代マンガ図書館	
『コケカキイキイ』	水木しげる	講談社	1986(昭和61)		紙芝居世界の「コケカキイキイ」とは全く別の妖怪(?)として水木しげるによって創作された「コケカキイキイ」の連作シリーズ。
<謎のマンガ家>酒井七馬					
「鞍馬小天狗」第二編第34巻〔紙芝居〕	佐久良五郎(酒井七馬)	三邑会		大阪府立国際児童文学館	大仏次郎の小説やそれをもとにした映画などで人気を博していた幕末のヒーロー「鞍馬天狗」が、「コテちゃんこと鞍馬小天狗に代わって、京の都で大立ち回り。新選組が敵役なのは元ネタ同様だが、大ヒヒが出てきたり、本家ではその剣さばきが子どもたちに人気だったチャンバラシーンで刀を抜かなかったり、酒井なりのオリジナリティがみられます。

「少年ローンレンジャー」第28巻 [紙芝居]	佐久良五郎 (酒井七馬)	三邑会		大阪府立 国際児童 文学館	「ハイヨー、シルバー！」という掛け声と共に、日本でも子どもたちに大人気を博したアメリカのテレビドラマ「ローンレンジャー」(1958年放映開始)をヒントに作られたと思われる作品。
「原子怪物ガニラ」第3巻 [紙芝居]	佐久良五郎 (酒井七馬)	三邑会		大阪府立 国際児童 文学館	原爆実験により巨大化したカニ、「ガニラ」の恐怖を描く海洋パニックアクション。酒井には他に、原爆実験がきっかけで怪物化した人間をテーマにした「ある日突然に」という作品もあります。『ゴジラ』(1954年公開)がそうだったように、ビキニ環礁での水爆実験(1954年)や、決して過去のことではなかったヒロシマ・ナガサキの原爆体験は、当時のポピュラーカルチャーに様々な形で影を落とすこととなります。
『新宝島』(「手塚治虫漫画全集」版)	手塚治虫	講談社	1984 (昭和59)		この「新宝島」は、全集刊行時に、手塚治虫が描き直したものです。ここに展示してあります「新宝島」の「あとがき」をご覧ください。それによりますと、原本のままの収録に、手塚は最後まで反対したそうです。その理由として、原本が粗悪な「描き版」であったことと、手塚の原稿に酒井七馬が手を入れてしまったため完全な手塚作品と言えないことを挙げています。当時、原稿製版は写真にとってそのまま版におこすのではなく、版下屋さんが、原稿を自分でトレースしてオフセット版を作っていたため、もとの原稿とは似ても似つかぬものになることがありました。また、酒井が、もともと250ページあった原稿を60ページ削った上、セリフや、ターザンの顔といった絵にもかなり手を入れていると手塚は証言しています。
『黄金バット ルビーの王冠』		榎本書店	1949 (昭和24)		露天などで駄玩具的に売られていた赤本。著作権の観念が一般的でなかったこともあり、あるマンガやテレビドラマが流行ると、すぐにその類似作品が赤本として作られました。当時人気だった「黄金バット」ももちろん、赤本の世界に登場します。中世の騎士の姿をしているところから永松版黄金バットがモデルだと思われるますが、絵・おはなしの質はもちろん、設定なども本家とは全く異なります。
『鞍馬湖天狗 京洛の巻』	酒井七馬	美育社	1954 (昭和29)	大阪府立 国際児童 文学館	『大阪日日新聞』に連載されていた、酒井七馬による絵物語版「鞍馬小天狗」。同じ設定ながら、壁の紙芝居版と比べると、絵柄がずいぶん「マンガ的」です。隣の「からす小天狗」は、タイトルと表紙のみ異なっており、中身は全く同じものです。
『からす小天狗』第1集	酒井七馬	中部出版社		現代マン ガ図書館	
『ビックリ坊ヤ』	酒井七馬	児訓社	1947 (昭和22)	大阪府立 国際児童 文学館	
『ロバ物語』	酒井七馬	児訓社	1947 (昭和22)	大阪府立 国際児童 文学館	